

志津川支所に新事務所 震災5年半、念願かなう

組合員の心の拠り所となる新事務所と笑顔の役員(下)



当組合志津川支所(南三陸町)は9月中旬、後の旭ヶ浦地区に竣工した。東日本大震災から5年半後の新設復旧で、長い年月を耐えてきた役員、組合員には念願の施設だ。



新事務所は軽量鉄骨平屋建て約350平方メートル、明るくゆたがり。会議室は30人規模の集会所もできる。佐々木連営委員長は落成式で「新事務所ができ、一カ所に集まることが本声にありがたい」と声を弾ませた。組合員や関連する人々が気安く来られるようになるのをモットーにしていたという「その意味でも一安心」と喜んだ。

佐藤俊光支所長も「このなら(組合員は)船をつないだまま、長靴、合羽のまままで事務所前を出る。市場のそばに、要望が多かったATMもできた」と笑顔で話す。組合員の心の拠り所として、また円滑な業務運営や職員のコミュニケーションを図る上でも、新事務所の果たす役割は大きい。



海難遺児に義援金

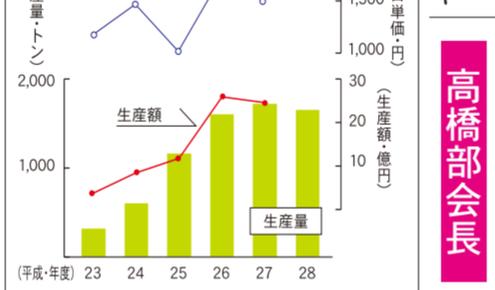
小野寺カラオケ会

当組合網地島支所女性部の小野寺たつえ部長が主催する小野寺カラオケ会は9月18日、東松島市コミュニティセンターで海難遺児チャリティ公演を開催し、漁船海難遺児を励ます宮城県協議会(会長・丹野一雄当組合長)に10万円を義援金として寄付した。

公演は小野寺カラオケ教室30周年などを記念した「小野寺たつえ発表会」。



盛漁期に向かうカキ(10日、当組合石巻湾支所共同処理場)



高橋文生かき部会長に聞いた。われわれは、入札開始が遅れてもいいカキを提供したいという思いが強かった。卵は、8月の台風9、10号で抜けたが、9月に入って水温が高く再び持った。成長の遅れは、雨は多かったもののそのまま川から漁場に流れて栄養塩が乏しく、日照不足もあったためとみ

カキ盛漁期へ



高橋文生部会長

鮮カキの共販入札が10日に始まった。これから盛漁期を迎える。身入りは昨シーズンより遅れ気味だが、水温が下がりがつあり回復に向かう。生産見込みは、台風被害を受け、昨シーズン(1722トン)をやや下回る1500~1600トン。流通面では広島産の出回りが懸念される。生産、価格の両面で昨シーズンのようなよい展開は望み薄の状況だが、当組合かき部会の高橋文生部会長は品質で消費の伸び、価格上昇に期待をかける。

水温下がり身入り回復

入札開始は昨シーズンより4日遅れた。事前の品質検査で、かき部会と買受人がそれぞれ卵の持ち具合などを見て、10日開始で一致。昨シーズンに比べ、卵持ちの割合が高く、粒も成長が遅れ小さかった。

広島産の出回り心配

品質勝負消費と価格アップを

高橋部会長

は、出荷では広島県や岩手県の加熱向けむき身より遅れたが、身入りの上から、「安全・安心でおいしい生食向け」で全国の市場をリードしていきたい。

安全・安心では、ノロウイルス検査を11海域の27定点で、貝毒検査を11海域で、いずれも毎週実施。当組合経済事業部は「一番厳しくした一昨年度と同じ検査態勢」と話す。衛生管理でも「処理場のルールにのっとり作業手順の順守を」と生産者に求め、万全を期す。

生産では、昨シーズンを超え、身入り次第で1800トンくらいになるとみていたが、台風での落下などの被害を考えると1500~1600トンを見込むのが妥当だ。震災後は、以前の半分以下の2千トンを目標にしてきたが、そこでも回復できなかった。生産者の減少が一番大きな原因だ。

今季は広島産の出回りが心配される。成長が早いという情報もあるが、昨年、一昨年の水揚げがよくなかったため、垂下量を増やしたと聞いていた。とりあえずは加熱向けの小粒でも、数量は出るとみている。

われわれ生産者は価格で我慢の年になるかもしれないが、どこまで我慢できるかで生産調整も考えていきたい。私の思惑は、10、11、12月で1200円以下に下がったら2月に安くならたら平均価格が千円を割る恐れがある。昨年の平均1400円台、一昨年の1600円台はよすぎた。いずれにしても、品質がよくおいしいカキを作って消費者に届けば需要が伸びて価格も上がる。粒の大きさは買受人にそれぞれの用途に合わせてもらえないが、大粒でも小粒でも身入りが大変だ。また、いままでと同じ生食向けで「安全・安心」をうたっており、それを踏まえた努力も怠らないようにしたい。

担い手育成に力 石巻地区支所 1週間の研修も



漁業・養殖業の担い手を増やすため、当組合石巻地区支所(伏見眞司運営委員長・石巻市)は今年から、一般社団法人フイッシャーマン・ジャパン(同市)と共同で、関心のある未経験の若者に7月の実習で、自ら水揚げした魚の刺身を食べて歓声をあげる参加者体験や研修をしようという。

1週間の研修では、カキやワカメの養殖、アナゴ漁業に従事してもらった。3人のうち1人は就業希望の意思を示しているという。

同支所では「参加者の」間口を広げた2泊3日の体験では効果が見えにくい。今後は本場にやりたい人と実際に受け入れたい人との1週間からの研修を進めていきたい」と話している。

将来見据え種苗生産

子供に海と魚を伝えたい

青年部

会員43人。環境が異なる7つの浜でさまざまな漁種に就いている青年たちが、七ヶ浜全体として海を守り、その恵みをPRするため集まっている。多くはノリ養殖に携わっているため、活動は夏期が中心となるが、限られた時間なかで積極的に協力しあっている。

七ヶ浜支所青年研究会



幼稚園児とヒラメ稚魚4万尾を放流(昨年9月、吉田花洲港岸壁)



3年前からアサリとウニの種苗生産を試験的に

実施。2年間でそれぞれ50万個、1万個を放流した。商品になる大きさに育つにはまだまだ時間がかかるが、少しでも漁獲につながるようにと、将来の浜を見据えて取り組む。平成25年に七ヶ浜町水産振興センターができた、ノリ種苗以外にも種苗生産のキャパができたからこそ可能となった試みだ。

七ヶ浜の魚介は好評を得て高値がついている。きちんと管理して安定供給し、付加価値をつけてブランド化するためにも、種苗生産には今後力を入れていきたい考えた。

左から赤間善勝さん、寺澤善公さん、会長の赤間竹晴さん、石森圭太さん

ノリ種苗23万枚出荷

七ヶ浜町水産振興センター 品質向上求め品種改良も



102基の水槽が整然と並ぶ糸状体培養棟で、種のついた力キ殻原盤を持ち上げる森永公平さん



実験室内の阿部太陽さん。このフラスコひとつに2万枚分のフリースケルが入っている

また、ヒラメ稚魚の放流体験を、町内の幼稚園に声をかけて毎年実施。「放流がすぐに漁獲につながるわけではないけれど、まずは魚というものを育ててほしい。ここに住む子どもたちに漁業というものを伝えてほしい」というのが狙い。

い。魚離れは都会だけの問題ではない。自分の生まれ育った海で何が採れているのか知らない子どもも多く、それどころか食べたこともない子どももけっこういるという。種苗生産で供給を安定させるとともに、それを「欲しい」という人をも

つと増やしたい。町外、県外よりもまず、地元の小中学生、そしてお母さんたちに、もっともつと目の前の海で採れるものがどれほどおいしいかを伝えていきたいという。

もつと漁獲が増え、支所隣の海の駅「七のや」などにも供給できるようになる。七ヶ浜の海は、今後最も力を入れていきたい取り組みだ。ノリ養

殖、アサリ、潜水漁など、地元の海の営みを、現場を見せたり現物を見せることで、どんどんアピールしていきたい。「来るのを待つのではなく、こちから出かけていく」。おらほの海の素晴らしさを伝えたいという青年たちの思いは熱い。

た目的のひとつ。宮城の海で安定した生産量を確保できる品種、そして品質の向上にも余念がない。今後とも連携し九州の種苗に負けない品種を模索していく。震災前は20万枚のノリ種苗を提供していた。新設復旧したこの施設は「素晴らしい」と森永さん。

当組合は平成25年10月、ノリ種苗生産を中心にヒラメの中間育成やナマコ・アサリの種苗生産を目的とした栽培漁業の拠点、七ヶ浜町水産振興センターを整備した。ノリは県内唯一の種苗生産施設として、ことしも8月中旬から9月中旬にか

けて、23万枚の種苗を、養殖生産する全ての支所に出荷した。県内のノリ種苗の需要は約100万枚といわ

れ、センターは当初目標のシェア20%を達成したことになる。残りの約80%は九州からの種苗。九州でのノリ種苗生産の歴史は古い。顧問の森永公平さんは、九州の会社で品種改良に

赴任当初、種入れ時に水温が5度を切れば付きにくい、出荷前に23度を切れば種を放出してしまおう、と水温を心配した。だが、糸状体培養棟には床暖房が設置され、心配は杞憂(きゆう)に終わった。「地域ならではの事情をよく考えて作られている」と感心する。



協同組合論

北海学園大学経済学部教授

濱田 武士

⑥

協同組合の原則に「組合員は出資者であり、事業利用者であり、運営参加者である」が追加されます。たしかに、組合員は事業を利用するために出資者になります。しかし、事業の利用頻度が組合員によってまちまちになり、組合員のニーズが多様化している今日、組合員と協同組合との距離感はずいぶん広がっています。それに伴って協同組合の運営に参加する意欲や責任感にも差が生じています。つまり、組合員の「参加」という側面

「参加」は協同組合の原則

に、協同組合原則の「揺らぎ」がどうしても見えてきます。たとえば、漁協の総会や総代会を想定し、組合員は組合員が参加するもので、総代会が行われている場合は、それ以前に地区別にその意向をまとめる集会があります。近年、これらの「会」に、出席しない組合員が増えているという話を各地で聞きます。どうしても「会」に出席で

なく「会」は漁協運営に開く意思決定機関です。そこへの組合員の出席が減っているのですから、原則が揺らいでいることがわかります。もちろん、多くの場合、出席できない組合員

は委任状を提出して、欠席しても「参加」の意思表示はしています。また、これによって「会」を成立させていること、「会」を成立させること、漁協の運営においてこれは大切なことです。しかし、これは、あくまで形式的な参加です。組合員の参加に関連して、もっと大事なことがあります。漁協の全体の方向性を決めるときに、

組合員が納得できるような状況が作られているかどうかです。賛成と反対の両者の事情や意見が十分に踏まえられているか、組合員の間には「禍根」を残さないようにしているかどうかです。

このことは、従前、漁協では当然のことだと考えられていたと思われませんが、漁協合併が進み、世代交代が進んだことが影響して、昨今は原則が忘れられがちになっています。この原則が崩れると、例えば自然災害があ

ったときに、協同組合のなかに備わっている相互扶助(互いに助け合う)の機能が動かなくなり、「参加」という原則は、運営を民主的に進めるためにありますが、いざというときの備えのためには、いざというときも過言ではありません。

では、組合員はどうすればよいのでしょうか。その答えは簡単です。日頃から組合員が顔を合わせて、互いの事情をよく理解し得る人間関係を構築しておくことであり、職員もそうした機会をし

つかりとつくっておくことです。東日本大震災で、閉鎖された支所がありますが、少なくとも組合員が集まって話し合えるべきだと思います。浜は、それぞれが小さな社会です。漁協は、その連合組織です。各浜の意見をまとめるのは大変なことですが、まとめることでしか漁協はよくならないのも確かです。そのためにも、まず組合員一人一人が協同組合の原則を理解しておくことが大切なのです。



震災前のフリー糸状体の状態と、震災後の状態を比較した写真。震災前は糸状体の先端が丸みを帯びており、震災後は先端が鋭くなる傾向がある。これは、震災後の水質悪化によるストレスによるものである。



表浜支所・木村隆之さん



小淵漁港で白い歯を見せる木村隆之さん(37)は、金隆丸(6・2ト)に乗り、主にカキとワカメ養殖を営んでいる。5代目となる漁師の家系。高校卒業後仙台の市場に就職し、そして戻ってきた。

「先輩の助けっけい」

もちろん父から仕事を教わってきたけれど、今は「先輩の助けっけい」

大切な実感している。仕事を教わるのも、オヤジだと甘えが出るが、先

先輩・仲間の力の大きさを実感

た。長男として「家って継ぐもんなのかな、何にもわからずそう思ったという。そしてやっていくうちに面白くなった。最初は父と一緒に船に乗っていたが、父が体を壊し入院した23歳のとき独り立ちした。「それまでオヤジのことをあてにしていたけれど、やってみっか」と。

大切な実感している。仕事を教わるのも、オヤジだと甘えが出るが、先

うのがいちばんおっきいんだっちゃん」という。昨日も、シウリガイ(ムラサキガイ)の駆除に失敗してカキを全滅させてしまったが、先輩たちが自分で育てたものを分けてくれた。自然という、とても人間の力、太刀打ちできない大きなものを相手に仕事をするうえで、日々仲間の力、大切さを実感している。仕事を教わるのも、オヤジだと甘えが出るが、先

「ちゃんと着けてね「大丈夫」。各浜で漁業者に直接呼びかけた(佐須浜)

「着けてるよ」と答えていました。

LGLの活動は、平成18年、海上保安署の呼びかけで雄勝町東支所の3人が開始。10年経過した現在、全国に3200人と千倍にもなりました。着実に効果を上げて、全国にさがかけて県内の着用率はほぼ100%に達しています。

宮城県内振り込め詐欺の被害状況 ()内は前年同期比 出典:宮城県警察HP

	認知件数			被害金額		
	平成26年	平成27年	平成28年(1~8月)	平成26年	平成27年	平成28年(1~8月)
オレオレ詐欺	62	151	58(-37)	2億1897万円	4億4378万円	1億5432万円(-1億4722万円)
架空請求詐欺	51	87	73(+21)	2億1244万円	2億8639万円	1億9962万円(+7822万円)
融資保証金詐欺	13	13	8(-1)	1306万円	1688万円	878万円(+482万円)
還付金等詐欺	40	74	29(-20)	3144万円	8608万円	3095万円(-1640万円)
振り込め詐欺合計	166	325	168(-37)	4億7591万円	8億3314万円	3億9367万円(-8058万円)

全国的に振り込め詐欺の被害が後を絶ちません。手口は年々多様化・巧妙化しております。宮城県警の調査によると、今年1~8月、県内では168件、総額3億9千万円を超える被害が報告されています。実際にはもっと多くの被害が隠れていると思われる。不審な電話と思ったり、まず家族・警察・支所に相談、確認をお願いします。

「オレオレ詐欺」は減ったものの、増加しているのは「架空請求詐欺」で、金額で全体の半分以上。

プレゼントがうれしい!!
全国統一キャンペーン

当組合の信用共済本部は、今年も11月と12月の2カ月間、農林中央金庫とタイアップし全国統一



プレゼントのひとつ、カタログギフトは魅力的な品物がたくさん。個数に限りがあるのでお早めに

上。さまざまな機関を名乗り、支払いの請求をするものです。このほか、出資や還付金受け取りを持ち出すものもあります。

送金方法も多様化し、昨年からコンビニ等で購入する電子マネーのカードによる被害も全国的に増加しています。昨年被害に遭った約7割が60歳以上、約6割が女性です。

信用共済部・飯尾部長の話「いまのところ当組合を語った詐欺は報告されていませんが、他県では組合の名を語った詐欺の電話が報告されています。不審な電話を受けたときには、あわてず、必ず家族や窓口に相談してください。」

着よう・着せよう ライフジャケット

13の浜回り直接呼びかけ 石巻地区・東支所LGL

石巻地区、石巻市東支所女性部のLGL(ライフガードレディ)は9月14日、合同でライフジャケット着用推進運動を実施しました。その日の赤いビブスを着けたLGLのほか、石巻海上保安署、石巻市役所、そして当組合からも職員が参加しました。

石巻地区支所前の佐須浜で行われた陣式では宮城県漁船海難防止協議



「着けてるよ」と答えていました。

各浜では、仕事をしている漁業者に直接声をかけ、パンフレットやPR用品を配布。ライフジャケットの見本も持参し、保安署職員が着用方法を指導しました。横江署長の「海では、ちゃんと着用していますか」の問いかけに皆笑顔で「着けてるよ」と答えていました。

石巻地区支所LGLの江刺みゆきさん(当組合女性部連絡協議会会長)は「大切な家族のために、着ます、着せます、ライフジャケット」を合言葉に、私たちの力で地域の方々の安全を守りましょう」と決意表明。石巻市東支所LGLの武田寿子さんの号令で、両支所管轄の13の浜を順に巡回しました。

都市。この推進にあたっては、家族や地域住民に直接命の大切さを訴えるLGLの呼びかけが最も効果的」とさらなる活動推進を鼓舞しました。石巻海上保安署の横江正則署長も「今後もこの活動を進めて1人でも多くの命を救いたい」と、LGLとのタッグに大きな期待を寄せました。

組合からのお知らせ 信用共済部

振り込め詐欺にご注意を

不審電話はまず相談

キャンペーンを実施します

定期貯金(積立定期貯金を含む)・定期積金の1年以上、1万円以上の新規・増額のお客さま、および年金受給の新規口座指定のお客さまを対象に、プレゼントをご用意しています。

プレゼントは内容に応じJFオリジナルのき箸や、上質な雑貨やグルメを自由に選べるカタログギフト。1人1回限り、先着順です。ぜひこの機会にご検討を。詳しくは各支所窓口でお問い合わせください。

離島ハンデも少数精鋭で果敢に



塩釜市浦戸支所 組合員数129人、うち准95人。職員は3人。販売取扱いは平成27年度で2億5837万円(税抜)。約85%が乾のりで、約14%がカキ。残りはアワビ、アサリ、シラウオなど。カキやノリは味よさで知られている。

塩釜から市営汽船で20分。松島湾に浮かぶ浦戸諸島・桂島の桂島、石浜両地区と野々島を管轄する。

ノリに自信、美味格別

川が多く流れ込む内湾の、栄養たっぷりの漁場で育ったノリは格別においしいと、生産者たちは自信をもっている。カキ

内海勇一 運営委員長



願法誠支所長



も同様で、小粒だが味は抜群。酢がきなど生食で喜ばれている。震災でノリの養殖施設や乾燥機械なども被害を受けた。現在、被災漁家は国の支援で再建した施設の利用料を払いながら共同で生産している。

「島なので何をしても、資材の輸送とか油とか、ほかの支所に比べて

不利。組合員も職員数も少ないが、少数精鋭で頑張っている」と内海勇一運営委員長は微笑む。販売実績は、震災前の8割ほどまで戻っている。

高齢化と後継者不足はここでも深刻な問題だが、塩釜市は「地域おこし協力隊」として、ノリ養殖業の担い手を広く全国に募集。現在2人が市の臨時職員という形でノリ養殖を一緒にやっている。島には、こうした人たちが長期にわたって滞在できる「ステイステーション」という宿舎も作った。「やがて担い手に育つてくれるといい」と願

あたまつこカキ始動

おいしいと評価も高いカキのなかでも、ブランド化を図っているのが「あたまつこカキ」。

垂下式のカキの一番上の「あたまつこ」は、干

湿が繰り返され、身が厚くなつておいしいが、小ぶりなため共販には向かない。おいしさを知っている生産者が家を持って帰って食べていた。これを量産できないかと震災前から取り組んでいた。なかなか量産体制が整わず、地元のレストランに少量販売していたが、昨年、ようやく量産にこぎつけた。

母ちゃんもがんばる

今年5月、日本財団の支援を受けて再建した新事務所には、入口の隣にもうひとつ「番屋」を掲げたドアが目を引く。調理場が完備した「がんばる浦戸の母ちゃん会」の

活動の場だ。女性部を中心とした有志33人が出資しあって会社を立ち上げ、注文を受けてイベントや職場の集まりに弁当やオードブルなどを手作り、販売している。

「島という、地理的に不利な条件だけれど、それでもやってみよう」と立ち上がったので、支所でも応援したい」と内海委員長。女性部の希望を聞きながら設備も検討。缶詰の機械も設置した。

「番屋」ができた5月から本格的に活動がスタートしたばかりだが、地元で採れるものを使ったヒット商品を生み出そうと、今後の方向性を模索中。いずれは地域外でも販売したいという。

塩釜市浦戸

支所を訪ねて

女川町

女川町支所 組合員数384人、うち准104人。職員は臨時1人含め10人。販売取扱いは53億9800万円(税抜)。そのうち約半分が養殖ギンザケで約2割がホタテ。ほかにホヤ、カキ、鮮魚、ウニ、アワビなど。ギンザケとホタテは県一の生産を誇る。今年7月に女川町魚市場の中央棟に事務所を移転した。



阿部彰喜 運営委員長



平塚正信 支所長



19の浜を管轄し、組合員のうち117人がホヤ、59人がカキ、55人がホタテの養殖を営む(兼業含む)。ギンザケ養殖は35人と少ないが、県漁協にとつて重要な漁種。同支所でも28億円の販売取扱高をあげている。阿部彰喜運営委員長は「伊達のぎん」グループのメンバーで、当組合一の水

震災前超える生産額

震災では組合員33人を亡くした。処理場がなくなくなったことや高齢化で、カキ業者もかなり減った。しかし現在、水揚げ高は震災前を超えるようになった。ギンザケ漁業者の「がんばる養殖復興支援事業」活用率が98%

揚実績をもつ。震災では組合員33人を亡くした。処理場がなくなくなったことや高齢化で、カキ業者もかなり減った。しかし現在、水揚げ高は震災前を超えるようになった。ギンザケ漁業者の「がんばる養殖復興支援事業」活用率が98%

近くになり、共販率がぐつと上がったことも大きい。「共販率を維持することに力を入れていかなくてはならない」と平塚正信支所長は話す。

赤字から不屈の転換

ギンザケはチリ産など輸入品と競合し、単価が大きく変動。今年も高値をつけ一安心しているが、リスクは常に負っている。暴落も経験し、震災前からの累積赤字があつたが、十数年かけ、平成26年に黒字に転換した。平塚支所長は「組合員さん全員の努力でこまできた。死活問題と

なつたとき、一人ひとりの認識、やる気が強かつた」と振り返る。阿部委員長は「職員がわれわれをきちつと見て、経費削減などの対応をしてくれた結果」と喜ぶ。今のところあまりに

町からの手厚い支援

ここまでできたのは、町の支援も大きかった。もちろん国や県からの支援もあつたが、女川町はかなり末端まで行き届く手厚い支援をしてくれたと平塚支所長は話す。水産の町という認識で、ほか

町の連携し地産地消のPRにも機会ある

町と連携し地産地消のPRにも機会あることに参加。学校給食に地元の水揚げされる海産物を使つてもらい、食育にも力を入れている。「やはり地元の人たちから理解してもらわない」と平塚

支所長は考える

「日本のものは何といつても安全・安心。だから国内のものを消費してもらいたい。ギンザケでは、卵から生産まで一括管理しているというのをうたい文句にしたい」。その結果、外国産に左右されない安定した価格とすることが重要という。黒字をずっと維持していくというのはいへんなこと。自然相手なので不測の事態は必ずあるが「女川は今後も経済事業に力を入れていく」と平塚支所長。「職員の音頭が組合員を動かすエネルギーのひとつ。前進あるのみ」と阿部委員長。組合員と職員、そして町のスクラムは固い。

組合員・支所・町結束で水揚げ県内一

行事予定

イベント名	主催	日時	場所	内容
ベガルタ仙台物産展	ベガルタ仙台	10月29日 11月3日	東京都味の素スタジアム 仙台市ユアテックススタジアム	カキ、ホヤ等の水産物販売
名古屋市場祭り	名古屋市場	10月30日	名古屋市	ホタテ焼き、焼きカキの調理販売
みやぎフェスタ@MEGAWEB	宮城県 水産業振興課	11月5日	東京都お台場	ホタテ、ギンザケ、蒸しホヤの試食提供
デンソー本社イベント	デンソー	11月5、6日	愛知県刈谷市	ホタテ焼き、焼きカキの調理販売
A-COOP販促イベント	A-COOP	11月10日	A-COOP松島店	焼きカキ試食販売
		12月10日	A-COOP小牛田店	焼きカキ試食販売
		1月20日	A-COOP鹿島台店	焼きカキ試食販売
東急ストア内物産展	宮城げんき市	11月23日	東急ストア3店舗	焼きカキの提供
ジャパンフィッシャーマンズフェスティバル2016	実行委員会	11月17日 ~20日	東京都日比谷公園	ホタテ焼き、焼きカキの調理販売 他水産物販売
JALいのまき産直市	JALいのまき	12月10日	石巻西宮農倉庫など	水産品試食販売



7月30、31日、石巻市雲雀野埠頭で行われた音楽フェスティバル Reborn-Art Festival × ap bank fes 2016で、当漁協は焼きカキ、串焼き(カキ、ホヤ、タコ)、ギンザケ照焼き、蒸しホヤなど計4850食を販売。大好評でした